

雲出川 水紀行

上流の渓谷から平野部への流れ

上流部の美杉地域では、豊かな自然の中に天然記念物をはじめとする多くの動植物が分布しています（12ページの「歴史散歩68 美杉地域に生息する天然記念物」参照）。また、谷となって山を下る水は、上流部の美しい景観をつくり出すとともに、古くから私たちの生活に利用されてきました。

上流の急傾斜地につくられた藤堂池は、三多気のサクラの北にあるため池で、その名のとおり、津藩（藤堂藩）の灌漑政策の一環として作られました。この水を利用することで斜面の棚田の稲作が可能となり、春の田の水面に映る見事な桜並木の景観をもたらしてくれています。

上流部のもう一方の流れである八手俣川は、多気・下之川地区を流れ下り、水系で唯一のダムである君ヶ野ダムを経て、竹原地区で本流に合流します。

白山地域に入ると川の流れは一気に急になり、「家城ライン」と呼ばれる急流から、かつては硬い岩盤を削って洪水防止が施された流域随一の激流部である瀬戸ヶ淵に至ります。その上流部の井堰で水流をせき止めて農業用水を取り入れた「川口井」をはじめ、一志町には「高野井」、そして戸木町には「雲出井」が作られ、流域の米づくりに大きな役割を果たしました。

